

---

◎町長行政報告

○議長（藤井 要君） 日程第4、町長の行政報告を行います。

町長から報告の申し出がありますので、これを許します。

（町長 長嶋精一君 登壇）

○町長（長嶋精一君） それでは行政報告を申し上げます。 令和元年松崎町議会第4回定例会の開会にあたり、謹んで行政報告を申し上げます。

今年も残すところあと僅かとなり、何かとあわただしい頃となってまいりました。世界経済は、米中貿易摩擦、北朝鮮や香港問題等により不確実性が高まっております。県内経済は、世界情勢の変調に伴い生産活動に陰りが見えるのに加え、消費増税により、個人消費の行方が一段と不透明になってきております。

さて、この1年を振り返ってみますと、4月30日に平成の天皇陛下が退位され、皇太子徳仁親王殿下が、5月1日、第126代天皇に即位され、皇位継承に伴い元号が、令和に改まった年でありました。スポーツ界では、ラグビーワールドカップ日本大会の開催や、野球の国際大会「プレミア12」で日本代表「侍ジャパン」の優勝などにわきました。その一方で、川崎市スクールバスのバス停で発生した児童殺傷事件や、京都アニメーション放火事件、また台風15号、19号では、甚大な被害が発生し、安全、安心について再考させられた1年でありました。

私も今月で、町長就任からまる2年となりますが、公約に掲げた診療所の誘致、旧依田邸、道の駅の整備活用など、順風満帆ではありませんでしたが、実現まで、もう一步のところまでまいりました。今後とも行政諸般につきまして議員各位のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

次に、9月以降の町政の動向についてふれさせていただきます。1つ目は、クルーズ船の誘致についてであります。詳細については後程、担当課長から申し上げますが、松崎新港へのクルーズ船誘致の話がまとまり、来年8月に、大型客船「飛鳥Ⅱ」の松崎新港への寄港が決定いたしました。これにより、長年の懸案であった松崎新港の利活用に1つの道筋が見えたものと喜んでおります。2つ目は、自動運転実証実験についてであります。高齢化に伴う運転手不足、免許返納者等の移動困難者の交通手段確保の解決手法として、11月25日から12月5日まで、重文岩科学校、八木山間で実証実験が行われました。今後、バス路線の維持が困難な地域における公共交通の維持につながるものと期待しております。本日は、「町営観光施設の

入館状況について」他3件についてご報告いたします。詳細は担当課長より申し上げます。

○企画観光課長（高橋良延君） それでは、企画観光課から3件の行政報告させていただきます。始めに、町営観光施設の入館状況につきまして、資料ナンバー1によりご報告をいたします。1ページをお願いいたします。

始めに伊豆まつざき荘でございますが、右側の10月までの累計の比較でご説明をいたします。宿泊利用人員につきましては、10月まで289人減の12,090人となっており、入浴・休憩利用人員を加えた合計の利用人数につきましては10人増の19,053人となりました。収益につきましては、前年度より230万円ほど減少いたしまして、1億7,531万4千円となりました。次に交際費、減価償却費を加えた事業費用につきましては、前年度より186万8千円ほど増加いたしまして、1億7,908万5千円となり、利益につきましては、マイナス377万1千円、前年度より416万8千円のマイナスとなりました。特に10月の台風19号によりまして、175名のキャンセルがございまして、10月の損益が大きく影響した形となりました。

続きまして2ページをお願いいたします。長八美術館でございます。こちらは10月までの累計ですが、2,201人減の12,158人、収支差額につきましては、マイナス497万6千円で前年に比べまして134万2千円ほどのマイナスとなっております。

続きまして、重文岩科学校でございます。こちらは10月までの累計で1,442人減の7,634人で収支差額につきましては、マイナスの506万6千円ということで前年度に比べ88万6千円ほどのマイナスとなっているところでございます。

続きまして3ページをお願いいたします。明治商家中瀬邸でございます。こちらは10月までで998人減の5,814人。収支差額につきましては、マイナス359万3千円となっておりますが、前年度より37万8千円ほど収支としては改善ということでございます。

続きまして、民芸館でございます。民芸館については10月まで194人減の3,400人。収支差額につきましては、マイナスの255万4千円で、前年度に比べまして20万8千円ほど、こちらもマイナスという状況でございます。

続きまして4ページをお願いいたします。道の駅花の三聖苑でございます。こちらは10月まででございますが、前年に比べ674人減の2万6,641人。収支差額につきましては、マイナス515万4千円ということで、前年度に比べまして77万8千円ほど、こちらの方もマイナスという状況でございます。

10月までの累計におきましては、全ての施設について、利用者については減ということで、引き続き厳しい状況が続いておるところでございます。各施設におきましては、営業活動、企

画プランの販売、あるいは特別展の実施、体験事業の実施等々誘客活動を行いまして、情報発信そういったものを含めて取り組んでおります。先日は旅行会社の現地視察対応を行い、新たな商品企画のセールスも行ったところでございます。また、来春には花畑のコースに1回300人規模のバスツアーが7回ほど組まれることも決定したところでございます。今後も観光誘客に観光関係団体と連携して取り組んでまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

続きまして、行政報告の2件目でございます。松崎町第5次総合計画実施計画ローリングについて、資料ナンバー2をお願いいたします。実施計画につきましては、11月20日開催の議会全員協議会において、本資料に基づきご説明させていただいておりますので、概要のみご報告をさせていただきます。

松崎町第5次総合計画は、平成25年度から10年間にわたる計画で、本実施計画につきましては、令和2年度から令和4年度までの3ヶ年度の実施計画を見直したものになります。その結果、新規事業は6件、事業費変更増が26件、事業費変更減が15件、変更なしが37件の合計84件ということで見直しを行ったところでございます。3か年の総事業費につきましては、一番最後の6ページのところに記載がございます。6ページのところに3か年の総事業費につきましては、40億4,635万8千円。うち一般会計分は37億5,335万8千円、水道温泉の特別会計分2億9,300万円となっております。個別の事業につきましては2ページから6ページにそれぞれ記載してございますので、後でご覧をいただきたいと思っております。ローリングの説明については以上でございます。

続いてクルーズ船の誘致について、資料ナンバー3をお願いいたします。クルーズ船の誘致ですが、町では松崎新港の利活用の促進と、町内の経済・こちらの活性化を図るため、県と連携してクルーズ船の誘致に取り組んでまいりました。これまでに大型クルーズ船が錨泊するための松崎港の寄港可能性調査、お客様の輸送方法、船舶会社への観光資源などの提供、現地視察対応、ポートセールス等を行ってまいりまして、2年越しで実現に結び付けることができました。行程については、こちらに記載してあるとおりですが、来年2020年8月16日から19日までのツアーでございます。松崎港には8月18日に寄港する予定でございます。18日は朝8時ごろ松崎港に寄港いたしまして、17時ごろまで滞在をいたすということで組まれております。船舶飛鳥Ⅱの概要についてもこちらに記載してありますが、飛鳥Ⅱの概要については郵船クルーズ所有で、乗客数は892人、乗組員が470人、5万トンと日本で最大の客船でございます。クルーズシップオブザイヤー26年連続1位の、日本が誇る世界水準の客船でございます。1ペー

ジ以降は資料を付けましたが、こちらは詳しい説明はいたしません、現在、国を挙げてクルーズ船寄港を生かした地方創生を図ることといたしまして、クルーズ船の寄港回数は増えておるところでございます。県内への寄港の状況ですが、伊豆半島では熱海、伊東、下田に実績がございますが、今回、西海岸では松崎港が初めての寄港となるものでございます。クルーズ船寄港のメリットは、1つは地域への経済的効果、2つ目は乗客、乗組員1,000人余りの人が訪れるため、町を、あるいは西伊豆地域全体をPRする絶好のチャンスであると考えております。今後は、西伊豆町や官民連携による受入れ体制、これを整えてまいりたいと考えておりますので、議会の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

以上、企画観光課から3件のご報告をさせていただきました。

○生活環境課長（鈴木 悟君） それでは生活環境課から行政報告の4番目、公営企業会計令和元年10月末経営状況について報告させていただきます。資料ナンバー4をお願いいたします。

始めに水道事業会計の方でございます。本年度10月末収益につきましては、営業収益、営業外収益合わせまして①になりますが7,892万2千円、前年対比4万7千円0.1%の増となっております。10月末現在の有収水量につきまして、51万1,175立米で一般・営業用などの減少により前年対比5,438立米、1.1パーセントの減となりました。また、予定収益を入れた事業収益の合計は④になりますが8,587万3千円、前年対比8万円、0.1パーセントの減となっております。

一方、費用の方でございます。営業費用に予定費用を加えた合計は⑦になりますが7,406万円、前年対比30万1千円、0.4パーセントの増となっております。その結果、差引純利益につきましては1,181万3千円、前年対比38万1千円、3.1パーセント減となりました。

続きまして、温泉事業会計でございます。始めに収益の方でございます。営業収益、営業外収益合わせまして①になりますが3,322万3千円、前年対比29万1千円、0.9パーセントの減となっております。昨年同期と比べ、権利放棄により自家用が1件減少したことなどから収益減となりました。予定収益を加えた事業収益に合計は④になりますが3,450万5千円、前年対比29万6千円、0.9パーセントの減となっております。

一方、費用の方でございます。営業費用に予定費用を加えた合計は⑦になりますが2,916万8千円、前年対比77万8千円、2.7%の増となっております。その結果、差引純利益につきましては533万7千円、前年対比107万4千円、16.8のパーセントの減となりました。

水道事業会計、温泉事業会計ともに、使用水量、供給戸数の減少が続いているところがございます。水道事業については収益確保の方策を模索し、温泉事業については収益確保のため、引き続き新規加入の促進を図って行きたいと考えております。以上、10月末公営企業会計の状

況についてのご報告とさせていただきます。

○議長（藤井 要君） 以上で町長の行政報告を終わります。

暫時休憩いたします。

（午前 9時20分）

---